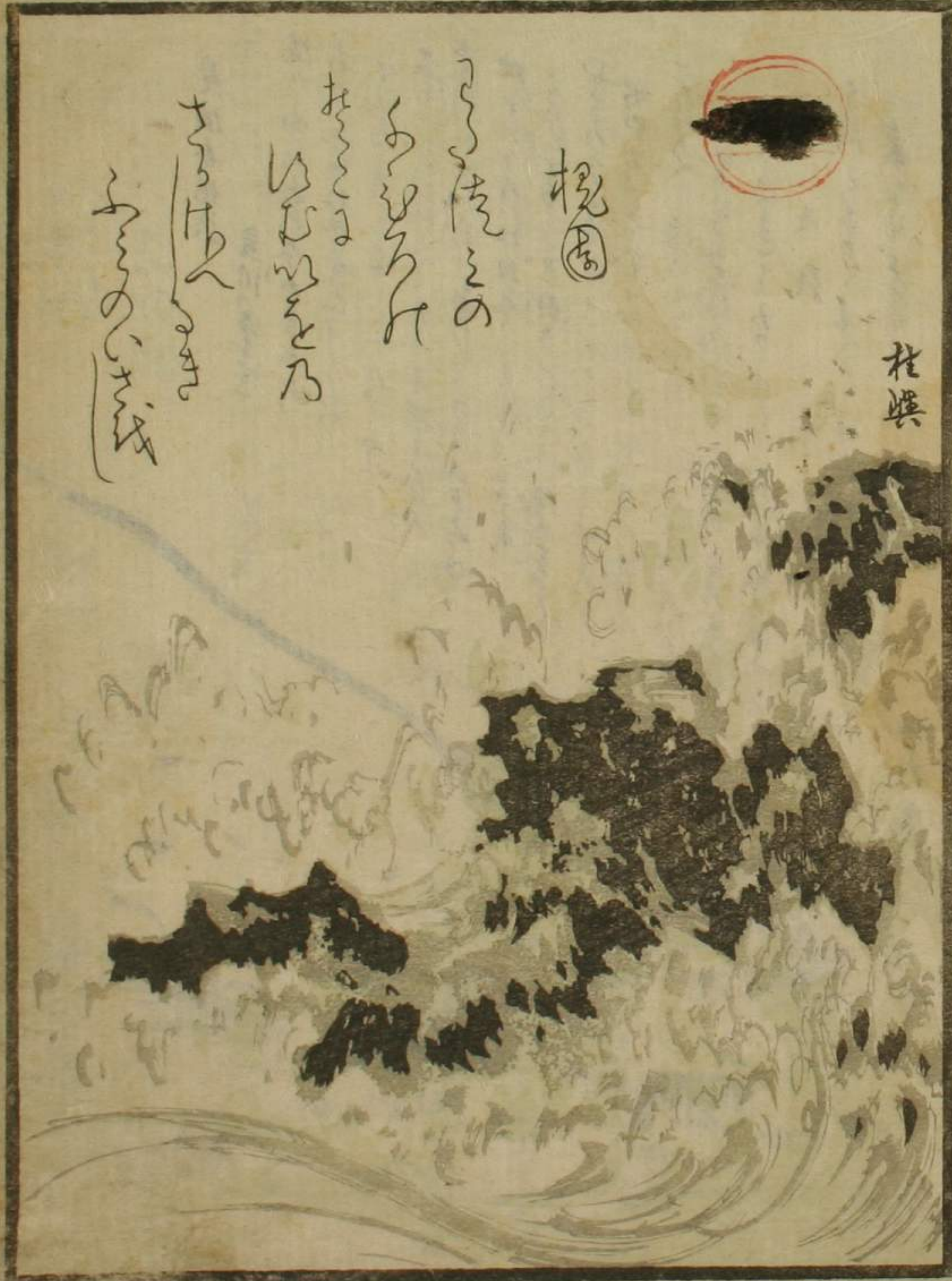


Handwritten text in Japanese, including a circular diagram or seal in the upper right quadrant. The text is arranged in vertical columns and includes characters such as 楊 (Yang) and 園 (Garden). There are also some faint blue ink markings and a red square stamp at the top left.



加門
號101
卷2



見魚舟他記

立川房

海の向新あれぬかきとら
 あらるゝね西幸とてか
 子日と新程あつてみ程さひ
 ちのし初あつてはひてまの
 地とてうた松魚をてし
 うひつとゆゑせぬり
 おわらるる後わさぬ
 水やをてともえん
 うた久とほのむもあ
 あつて男とて志
 ともへ進てな
 五
 う海とてとて
 裏とてとて



精筆

魚が、夏巻之下

東都・標涯武井周作著

よの部

よめがさら 嫁が笠又千鳥双といふ頂尖りて
 を雀つひ潮は晒さすて紅色なるを花うひ白色あるを
 雪をうひといふ漢名石磷一種うつせうひ漢名蠟とも
 函書よ出川

よこざよりや、よろづよあさほら

たの部

たい 日本紙は赤女古事記は赤海鯉延喜式は鯛の字あり

よた

漢名棘鬣魚 関志に出る。これ魚中の第一あり。尊貴の膳よかくべし。又上下とも。冠昏饗宴の餽贈にふさわ用ゆ。大ハ二尺余。小ハ二三寸。かきごとく。生煮とも。味ひ美し。四村ありといふ。と。櫻花盛りのころ。最美しく。つてさくらだいと称ふ。種類ふげし。多びきたい。暗紫色あり。つてさくら常のたいみ。比おれ。むその口。又く。だい。かん。だい。へ。だい。小。正。だい。あ。ま。だ。い。又。石。だい。い。も。り。ふ。さ。ド。だい。は。ま。を。れ。だ。い。等。な。味。ひ。劣。れ。り。 **氣味** 甘温毒あり。 **主治** 五臓を補ひ。氣血を滋し。常小食ふて。顔色を悦ばし。め。又。延。寿。なり。む。幹。ふ。作り。生。姜。山。葵。と。共。小。食。ふ。て。胃。を。健。み。食。を。と。む。む。

たら 東医宝鑑に吳魚の名を出し。俗に大口魚といふ。又鱈の字を用ゆ。越前の名。天下に甲あり。蝦夷越後小多し。真羽とも出む。皆塩をあり。塩よふ。く。生。小。あ。ら。く。ら。ぞ。歳。首。の。節。物。あり。一。種。い。ろ。微。黒。し。て。瘦。小。あ。る。も。の。を。あ。い。し。け。だ。ら。又。塩。け。と。し。だ。ら。と。い。ふ。味。ひ。良。く。は。と。く。と。休。度。金。山。よ。石。近。き。あ。つ。て。漢。了。と。の。い。佳。し。あ。う。て。塩。け。と。し。と。ふ。又。本。都。近。海。ま。れ。り。漁り得る。も。の。も。あ。れ。あり。 **氣味** 甘平毒あり。 **主治** 胃を潤し。食を消し。寤酒を解し。小水を利す。頗る血を破る。妊娠五ヶ月まで。忌む。寒中。子。あり。塩。花。一。兩。糖。と。あ。り。ま。る。

魚飯とありてよし。又其腸あり即白鱈あり。

たらのしを鱈ち色雲母紙のどく状狭長より刀剣小

似たり。よくみ毒有り洗き。べし。氣味甘温小毒あり。

たつ 又鱈さよりとよし。さよま似て大サ二尺余上嘴長く。

鱈細小腹白く背青く微し黄あり。庖人これを賤くす。

たふご 漢名志れど状ふなよ似て鱈細く白色大あすハ

三四寸何よ生て海よ長川胎より生ると他奥と異あり。

たか魚 俗に鱈の字を用ゆ。状いさきよ似て大サ二三寸。

頭縮り口小く鱈細く青白微く灰黒を帯び鱈よりよし。

たご 和名抄よ出川多股の義なり。漢名章魚。洞目よ出づ。

越中滑川出羽庄内のもの大サ丈よ盈つ。函書よ小大者

至能食猪即この類あり。所謂たご常よ食ふ所のもの

あり其小なるもの倍よ細だことよ。即塗波あり。鱈ハ

白粒みつもの倍よ飯だことよ。即望潮魚。撰泉紀播海

多し。帯長のもの倍よ長だことよ。即石距あり。其

関志よ出川。その脚の梢二三寸切さるべし。抄子とよもの

あり。湯り食へ。渾身よ斑を奪ふ。又曝乾さるるものを

ひだことよ。延喜主計式よ乾鱈。鱈脂あり。大膳式よ

干鮓あり。隱岐伊豫讚岐これを貢ふ。飯だこの子。干萬

連綿たるを塩乾とらるるを海藤花とあづく。氣味甘

鹹冷毒也。主治血を益し、氣を養ひ、節を強くし、骨を壯し、痔漏を療し、産後の瘀血を逐ふ。

たいらき 日本紀にたひらふうひ俗に烏帽子女と云、

の字を用ゆ、漢名江瑤柱、綱目に出、大者、廣サ共寸長サ

尺余、及ぶ上、廣く下、尖り、殼の中、二柱あり、一、大く、一、小き、

生煮、炙とも、味、ひ、自、專ら、上、厨、供、す、氣味、甘、鹹、平、毒、なし

主治中を調へ、氣を下し、水水利し、宿食を消、其、

布、腸を、塩、み、酒、盜、と、し、これ、を、下、物、と、其、れ、ハ、醉、と、なり、

たよ 和名抄にたつび、東雅にたつば、幾内よたの志、虫

越後よつば、薩、廣、よ、た、い、な、と、云、漢名田螺、綱目に出、川

水田池、瀆、に、生、き、其、の、殼、蒼、黒、み、て、肉、灰、黒、く、身、白、し、春、未

交、初、め、れ、を、食、ふ、氣味、甘、鹹、毒、なし、蕎、麥、と、同、く、食、ふ、べ、し

主治胃を健し、宿食を消し、結熱を解し、小便を利し

浮腫を去る、又、小便閉、大、た、た、み、と、巴、豆、と、搗、き、紙、に

の、む、し、臍、の、下、に、貼、れ、ど、即、時、に、通、ず、

たつ、り、ひい、こ、だい、ち、ん、あ、あ、こ、た、く、ら、ひ、こ、さ、ら、ひ、田、く、ひ、た、は、ぬ、共、あ、あ、

れの部、ろの部、そう、だ、う、つ、を、ま、い、ゆ、そ、う、め、ん、ご、う、あ、ら、う、を、

つの部、つば、つ、ば、

つきひがひ、清倍、く、ら、う、ぞ、く、日月螺、一名、蟬、蠣、と、い、ふ、大、サ、三、寸、殼

丸、く、半、片、白、く、半、片、紅、あり、薩、勢、紀、に、産、す、柱、寸、余、味、ひ、美

たれ、う、つ、ね、な

いりこ。こが。こきん。元気を補ひ五臓六腑を滋し
三焦の熱をまり。又けひると共煮食。一勞損法疾を
療し。髪を烏し。骨を固ふ。色赤きをあらなる事。子
凍瘡。子摺り付てし。○このゆへ延喜主計式。能登
貢。今諸國出。すとも。參州柵の島をよと。尾列
ふれ。ふいぎ。武州。秋田。はともふ。て。おとれ。

らの部 むの部

むつ 仙臺。よろくのうをよ。塩囊。抄。鮠の字を用ゆ。
漢名。ふれ。紫黒。み。て。頭眼。大。い。あり。尾。よ。岐。ち。く。脂。多。し。

と。よ。も。味。ひ。淡。し。春。月。多。し。氣味。甘。温。毒。無。食。て。疣。を。治。す。

うの部

うなぎ 和名。鰻。和名。むなぎ。一名。まぶか。みう。を。よ。し。
鰻。鱺。細。目。よ。出。づ。河。海。交。合。の。ゆ。め。を。よ。し。背。蒼。青。腹。下。
月。白。あり。止。水。の。ま。の。背。黒。く。腹。下。赤。黄。あり。努。り。大。あり。
もの。三尺。よ。過。す。といへ。薩。州。阿。波。ま。六。尺。余。の。もの。
あり。食。ふ。た。一。粒。白。魚。あり。もの。味。ひ。美。し。若。摺。小。
胡。麻。う。なぎ。と。よ。又。播。戸。よ。赤。色。の。もの。あり。又。蛇。う。なぎ。あり。
長。二。尺。許。圍。一。尺。よ。盈。り。常。よ。水。よ。あり。陸。よ。の。回。り。か。に。を。
啖。ふ。又。う。つ。が。う。な。海。中。小。産。す。鰻。魚。あり。細。目。よ。出。づ。又。

あらぶりなき琉球あらぶら高小産在因て名づく此海蛇
あり小なるを海龍といふ續臺灣府志より氣味甘温
毒なり西氏梅海蕎麥と共に食ふるに毒大に害あり
主治陽物を起し水腫を利し凡を祛け惡瘡を治し
眼を眩らみ一切の虫をころし小児の疳を治す

うに延喜式に甲螺和名抜し靈螺子うにと訓を俗に
雲丹の字を用中漢名海膽函書より出づ殼圓く外に刺
ありて棘を多し紫黑色その刺落れむ状星堯に似たり
これをわぶとつひと刺を番薯女といふ殼の肉食
登りしす只腸を脾胃と云肥前大村越前福井奥河

仙臺等より出す七のを美と云氣味甘淡冷毒なり

主治脾胃を補ひ酒毒を解し湯火傷をぬりてより

うき俗に植魚の字を用中漢名これ常陸海持り
これあり状あり多ひに似て一二丈鱗あり白色ありその
肉を取らむと志ろき腸をとより鮓糟として鬻の

氣味甘温毒なし**主治**胃を補ひ血をまし癰疔瘰癧は

うらひ漢名これす江湖に生る状こひに似て瘦せ鱗
細く色青白肉白ふり刺多く味ひよからず氣味寒甘

毒なり**主治**水腫を利し濕を祛ふ
うにあらず即一角魚の牙あり此魚鱗の類ありて卷首

既子圖す。ゆく。日本の小鯨はあり。油を煎し取す。
亦鯨。一尾。其の魚の大サ四丈余。七丈。及ひ。其の角ハ
上。臍子あり。長サ九尺。一丈五六尺。其の末甚す。と
なり。よく。雷船の鑊壁の如き。をも。貫く。よ。以。方。お。し。似
と。何。り。一。船。値。渡。の。海。を。凡。と。船。う。と。か。ず。時。は。船。底。お
あ。多。へ。て。も。の。折。る。响。あ。り。り。を。前。の。如。し。後。船。底。を
開。了。に。角。の。ぬ。く。長。サ。二。四。尺。斗。の。ま。の。貫。き。残。り。取。て
識。者。子。見。せ。し。と。あれ。一。角。あり。と。い。し。ぞ。又。古。説。は。馬。の
頭。牛。の。蹄。より。一。角。あり。と。い。ふ。其。説。は。
非。也。詳。し。六。物。新。志。に。あり。
主治 心氣を強し精神を益

麻疹及び諸熱毒諸中毒を解し。驚癇を治し。発汗す。
うしのき。う。と。志。す。う。る。う。う。同。せ。り。
うんきう。う。ま。の。ら。同。く。ひ。う。が。め。う。く。同。く。は。

めの部。の。部。た。の。部。の。部。
くの部

くぢら。唐。鯨。の。字。を用。ゆ。萬。葉。集。に。い。さ。あ。と
り。漢。名。海。鯨。綱。目。に。出。づ。魚。中。の。大。あり。と。の。あり。冬。ハ
南。に。往。き。春。に。北。に。往。く。状。肥。圓。み。く。長。大。なり。色。蒼。黒。
鱗。多。し。頭。ハ。牛。の。如。く。尾。ハ。横。よ。つ。く。魚。の。玉。茎。玉。門。あり。
これ。の。も。あり。狸。誘。ふ。一。浦。一。鯨。を。獲。る。と。き。ハ。七。御。氏

うみのホク

鯨ありと實子漁家の獲の骨一あり種多しやふ
傳聞とくらたよ記古せひ鯨好んで水面に浮ぶ北月乾の
の義ありながす鯨身長くして骨のぬしごとく鯨背者
のぬしやま右にあり同く鯨赤色ありかやま右に
むろで鯨五ツの鬣十二の脚ありて蜈蚣に似たり此鯨
持り大毒ありて漁人も懼るさうまゝ鯨倒戦のいひ
あり尖水も鱈うらよふあつて名はく又あつて五島
志同五島にはあん五島あり又あつて鯨かつを鯨と鯨
いわし鯨ぬを鯨まろ鯨ありこれ大栗といふも毫末
を捨る所あり油をとくと一魚ぬ千石よらぐ骨も

あやとあし農家のゆり少ふく世用もまゝ多しとす
氣味 甘酸大温毒あり皮革常食ふものあり又肉を
ゆぐきみとふ色似これ右に名はく小毒あり多食い
停滞し火を助し瘡を発す**主治** 腎を補ひ脾を
益し胃を調く腸を厚し虚冷久泄浮を以し暑氣
を祛ふ鯨細工は用ゆるまよこれせひ鯨の尾らありお
やあし切疵を治すたつはひれの肉ありをばき
尾の肉あり共食ふ充小毒ありとこむ筋筋あり
煮つ食て脆美し又製して唐弓の弦とすかぶらね
此枕骨を以て製す脆美毒ありひすくはる大腸あり

煤食カイシキ柔靱ヨウケンありて淡タンし久泄クシエを治シす。たけり陰莖インセウなり。婦人フジンの帯下オビゲを治シす。男子オトコの陽道ヨウダウを吐ハクす。一切イチケツの冷熱レイネツを治シす。蠱瘡クモカサ瘰癧レイリン黒色クワクふなり。身ミのあがりぬふすべし。○附ツケてふ。おきな。又大魚オホイサとふ。鯨クジラとふ。鯨クジラとふ。大なるものあり。小コソヤソヤとふ。大なるものあり。有アルる。列子リョウジの鯨クジラの廣ヒロサ數千里スウゼンリ長ナガサられよかあふ。つひツヒ莊子シュウジも鯨クジラとふ。魚イサとふ。華嚴經ケンの摩竭マゲツとふ。まよとる。あり。支チ鯨クジラとふ。つひツヒこれみふ。寓言ユガクあれども何ナニといふ。鯨クジラとふ。吾東海ゴトウカイにおきなとふ。魚イサ和ワす。其大シキより稀ヒす。背セのこゝあり。鳴ナリの如ニく山の如ニし。その出デる時トキ。海底カイテイを穿スると雷ライの如ニく。鯨クジラも逃ニケぎとあり。また

いつのころ。志摩シマの小平ヘイ治シす。よ。昔ムカシ海ウミに漂ヒタ着ツクせし。とあり。その北キタの方カタに漂ヒタす。中ナカ一ヒト枚ヒラあり。火ヒ燃ヒ出デる海上ウミノエ一面イツメン火ヒあり。とる。消クセ失シれ。つづくとあり。其コノ煙ケムリ吹フクとせし。海ウミとて。流ナリしといひ。傳ツタへられ。大魚オホイサあり。又マタ西洋人セウヤウジンが海ウミより。廻マヒり。三サン里許リノケのふも。船フネを繋ツナぎ。陸チカラより上ノボり。飯イを炊ヒき。食クハをり。て。纜ワタを解トき。二ニ十里程リノケも。り。比ヒ大海オホウミ。俄ツキに。潮ウシまき。けり。おや。と。み。小波コナミ島シマの。や。廻マヒり。沈シヅ失シ多クなり。され。北海ホウカイの大魚オホイサと。み。み。す。あ。や。や。ふ。ま。の。背セえ。り。つ。ひ。し。洋ヨウに。紅毛ベニウシ雜ワ話ワタシも。あ。く。ろ。だ。い。和名ワナ抄セウに出デる。食シヨウキキヨク経キヨクに。鬼魚オニイサと。訓クニに。又マタ并ナリ式シキ立ツ成チ

海鯽魚ウツクシ和名ちぬ西國オウゴンはちぬだいい小なるものを信しんふ
かひはハシとハシ漢名ウツクシ烏頰魚ウツクシ岡志オカシは形かたちたいい似て全身
灰黒あり古よりやむとくもその味あじひ美し真鯽
より次つぎのものなり **氣味**甘温毒なし妊婦食ふとやわ胎
を産うむとすも食ふとを忌む。

くらげ 食経は海月と刻くき信しんは水母の字すいぼを用もち漢名
海蛇ウツクシ綱目ウツクシは出いづ備前産びぜんるを上うとす石礬いし礬水いしに浸ひす
晒ひす時ときは玲瓏色れいろうあり又茶褐色ちやくありを柴漬しばとす
山礬さんの葉はを搗うりて作つくるなり又紅殷こうの製せいり **氣味**甘
鹹平毒なし **主治**婦人失血帶下おんなよりふぐの毒どくを解とす

又水くらげあり食ふべからず大毒ありその汁じゅう照てい入りす時ときは
即時たつは志しつつあり又また薫かくらげありこれも大毒あり觸ふる
とめろ痛楚つよくを發はすとも小東海ことうの産うるなり

くちめいまいせ くまひきあいらさ くづなあまたい くくーく
くくーく くくーく くくーく くくーく

ヤの部

ヤガラ 西國さいこくはふろふき綱目かうの鮓す魚ぎょなり或あるは王氏わう彙えい苑えんに
戴帽魚たいぼうぎょありとふ東海とう多たれと西海さい多たしは長ちやう狹けつ圓えん肥えいて
竹筍たけのこ箭や幹かんのどく鱗うろこ細こまく赤褐せき色しき上下じやうの吻くちばし長ちやうく雁嘴いんすいの
如ごとし **氣味**甘温毒あり **主治**信方しんは膈噎かくえつより効きうありとへり

やま

ハツ月うなぎ 状うなぎの如く左右各真眼一ツ眼子七ツあり
中ハハツ月と云ふ真眼ハ其のを視眼子ハ呼吸を通すもの
漢名其れ也 越後関川のものを上とす 寒中卵あるをうなぎと
異なりと云ふ 江戸小石川 猫股川にも有りと云ふ 鱈三寸ありて捕
小場くち **主治** みえ汁を煮食て 眼疾雀目を治す 虚弱小児に
やづ ぐりよ やうをいごり やゆら ゑびよ せどかり

まの部

まぐろ 京師はすらの名 漢名其れ也 潜俗黑鰻魚といふ
志比と一葉別種 その數多し 志比といふもの万葉集に
鮪の字を用也 大者もの七八尺より一丈許あり 黒灰色

黄点あり肉赤く血点あり味ひよくす 肥前五島多し
関東もあり まぐろと称するもの青黒色鱗や細り大あつた
ハ九尺許又小者一尺内あり 其のろよ小鱔の如
黄色肉淡赤きをきりごとよぶ 秋のころめを上す 又
ひき短く肉色おなききめむらとよぶ 比叟長き
をびんちかすよぶ 肉色すく一存し 又かーしりあり
鳧骨櫛ハ觸ると肘ハ貫ぬくもの 冬あり 春も
まぐろの時と云ふ **氣味** 甘温 小毒あり **主治** 人を肥し 健
あつた 虚を補ふ多し 食ハ 疥瘡を癩也
ます 食経ハ **鱧**の字を用也 漢名鱧 魚綱目に出づ

状さけは似て、あけ細は赤脈腫を貫き、肉赤く喜多
 味ひさけより青、河海にあり、潮より淡水の回
 ちのあり、越中神道川のその上あり、江戸海も美し
 越後飛弾常陸出羽陸奥にもあり、**氣味甘温毒なし**
主治 中を温め、氣を吐く、寸白虫を治す、多く食
 へ、疥癬を瘉す、又倍信子尾一度は食へ、疝氣を治す、
 まなかつを、漢名鯧魚細目よあづ、状ふち子州へ圓
 頭小く、肉白く、骨軟くなり、摂泉糟臭となり、遠小
 増ふ、江戸前も稀よあり、**氣味甘温毒なし** **主治** 五臓を
 調へ、胃の氣を利き、一切諸病は忌とす。

まて 辨色立成は、**聖和名** まて本草小馬刀一名馬鈴とす、
 漢名竹煙、函書よ出づ、所多くあり、殻圓く小竹管
 小似たて、**氣味甘微温毒なし** **主治** 冷痢を調ふ
 けの部 ふの部
 ぶり 唐韻よふ、鰯、老魚あり、鰯の字ぶりと訓は、綱
 目よ魚師清倍よ海鱧、京都よはまち、和名抄よ鰯の字
 をはり、ちちと訓は、俗よ鰯の字を用ゆ、肥前よやば
 とつ、丹後の興謝雲、島の鱸島を名産とす、他州もあり、
 五六月をわらち、八月より十月までをいふ、ぐ、年を
 越す、そのをばち、二歳の秋より冬までをわらさ。

四五歳のものをぶりとつふ。又ひらまささぶりに似て味は
美し。ぶりのるひあふべし。四月に鱈を生む。

ぶだい 伊勢にていうりとつふ。その大サ 尺余状ふなみ
似て厚き鱈赤褐色肉白し味は淡存鱈とも煮食

てより海魚の鱈を食ふは以魚の氣味 甘淡平毒なり。
ふぐ 崔氏食經は鯨鯢の字を用ゆ一名ふくべ下総

銚子の俗とみとふ。此江戸にてつありとつふと同義あり。
漢名河豚細目よ出づ。此又種類多し。虎ふぐの時珍

黄縷つりとつふあり。まふくは即斑魚又細目よいつ
し。月さいの細魚時珍食物本草よし。中麻の子ふぐ

相赤ふぐ一名苗代ふぐ大毒あり。又鯨ふぐは虎ふぐの
一種あり。かつをふぐ青色かつをのどくし。薩摩の海

は産む日向山中間水出て薩海よ入る。その間五十里急流
の大河あり。海を距ること三里兩岸村落相列すとあるを

河内川とふ。冬春の際に里人河に網して河豚を得る。
とある。此潮より淡水よ入るものなり。関東の冬の食

て春の珍とせむ。長州雲州は春も狩食ふ。且その肝を食
へども終に毒の中るをきく。蓋し瓜し瓜玉よあるり。又

はこふぐ漢名あぶら皮肉丁子様の骨ありて周身ふ
聚束す。東海稀よあり。その肉を食ふ。島ぶぐは圓く

ふ

身扁くして沙皮鱗文あり。又黒圓点あり。薩海に産す。
或は狡兎其皮を天竺流沙河の鯉の皮あり。と人誑これ
刀鞘を撈のこす。めふぐ海牛あり。本草原始小つ。小の
類は鯛の婚乃三ハ郎といふあり。又名ひをひよといふ。
みのかゆふぐ。漁虎なり。細目小あづ。その刺伏して。葉を
着るより。その刺の直立する。その。はりせん。はりふぐ
これ細魚の類あり。氣味甘大温大毒あり。輟耕録よ。凡食
河豚一日内不可服湯藥。荊苈最甚。又桔梗菊花甘草
烏頭附子を悪む。又菠薐菜と共に食ふ。へふぐ。大子
害あり。凡この毒を解る。ふ。は。は。は。を煎。眼を或

生食して妙あり。丹菜は勝れり。氣味一切の冷症腹
痛腰痛帶下を治す。ひふぐ。凡乾あり。毒絶たし。
故小。賢人よ。あふ。あ。れ。ぬ。干。ふ。ぐ。う。那。といへる
句あり。色白きを上とす。今於端午の菰物たる。
ふたよ。和名扱よ。出づ。本朝式文小鮓の字を用や。
漢名鯽魚又鮓魚。細目小あづ。昔近江の餘吾の
紅糸鮓とて賞しぬ。今もその名残れり。即勝所産
上る所あり。世に琵琶湖の産を上とす。倍子裏頂鮓
とつ。其の頃その多し。つ。を。と。て。あり。後誤りて
源五郎ぶなといふ。その身扁きものをひばら。ふ。な

とつひ上と身圓く鯉の如きものをいををるをといふ
 下と武州綾泳川のその大サ二尺ふい多味ひ美し
 信州諏訪湖のものも美し（氣味甘温毒あり） 麦門冬と
 共食ふ（主治） 胃を調へ腸を温め水を利し
 下血を止む赤痢は鱸と食ひ白痢は美と食ふ
 ふうふ（ふうふき） ふくべ（ふくべ） ふくたみ（ふうふ）
 ぶか ふかしくきありそぞ（ぶか）

この部

こひ 日本紀ふこひ（こひ） 即ちう（こひ） 相（こひ） 思（こひ） の事（こひ） 起（こひ） 賦（こひ）
 詳小壘仁紀通證よ（こひ） 多（こひ） 多（こひ） を鯉（こひ） 鯛（こひ） 小対（こひ） 出（こひ） とて

大位小位の義あり大小（大位） 今の正従の如し推古帝の御宇
 定めり（小位） 階あり細目（小位） 陶弘景曰鯉為諸魚之長形
 既可愛又能神變乃至飛越又獲頰の説（小位） 其脇
 鱗一道徒頭至尾無大小皆三十六鱗惟此最佳故
 為食品上味とあり（小位） 鯉ハ河魚の長鯛ハ海魚の長なり
 又百歳を経る時龍門（小位） のぼるふとくも弘景（小位） 説ふ
 ち（小位） 叶（小位） へ（小位） 此魚江河池水共産（小位） 山金鱗紫鬣紅肉あり
 長流淡水（小位） 生（小位） するものを上と云大湖（小位） あり（小位） 次（小位） 池（小位） 派（小位） の
 上の劣（小位） れり山城淀川（小位） 一たり（小位） 能中車下と称するもの
 絶品（小位） あり尋常（小位） 指を添（小位） ると能（小位） ます江都利根川

七亦美一 **氣味** 甘平毒あり **主治** 水腫を治し乳汁を

通す。腫眼疾赤痛及び熱腫雀目五疳より。

こちら 和俗 **輟** の字を用ゆ。漢名牛尾奠臺灣府志より。

状身扁く鱗細く頭大し尾尖り背灰色腹黄白大ありもの

一二尺小ありもの寸余は都海亦多し。夏月洗ひ銚して

あす時ハこひききよ次に酒煤の逸品あり。 **氣味** 甘

平毒なり **主治** 胃をひきききを益し食をすすむ。

このころ 和名抄より **四声字** 苑より **鯛** の字を刻む。

俗に **鯨** の字を用ゆ。初年をふよむ。二年をこのころと

ふ。大ありもの四五寸より六七寸よりある。背蒼く腹白し

肉白ふりて細刺多し炙煮共よし。鱠とあすも亦佳

氣味 甘温小毒有り多食くと熱を動かし瘡癩を癸す。

ことごと 即今年のこのころあり。鮓とあす時ハ鯛と

ともよ上饌は供也。このころハ蓋壤の相透あり。

こやむぐひ 和名抄より **うまのら** 白ひ俗にたら

ぐひ。紀伊より齒うひ。和方醫書より紙研奴と云ふ。漢名

貝子綱目より出づ。これ螺類よりてその柔多し。ふあしの

蠶豆のどく大ありもの小児の奉のとり其文紫質

白点白質紫点或ハ黄質ありて。纏絲文あり。肉を

科斗子の如く頭尾あり食ふに堪へず。一種純白瑩光

齒ふきものありこれ何洪龍が文房圖賛に貝元録
 あり世もつて珍とす俗に臨産にこれを持て易といふ
 ごとり漢名石伏魚福祿府志に甘平毒あり小水を利用
 ごまめいひこまこあゆこびるこころかあゆ
 ことひきこづごんざりこのころこころ
 ことひきこづごんざりこのころこころ

江の部ありての部ありての部ありての部あり
 あこの部

あんこう 俗に鯉の字を用ゆ漢名華臍魚一名琵琶
 魚一名蝦蟆魚中華の形琵琶と見壺夷の蝦蟆と
 見く名く或書は出たり夏月の堅魚は對て冬月

の上饌あり貴賤となく好事家の欲りす所寒中
 その價尤貴しその吻上は兩長鬚あり唇につけて釣竿
 につく常よ、額に冠り耐あり、徒のふれ、倫を重
 小似たり其未蠕々して虫の遊が如くやなえ其性
 游流連緩み、他魚の如く迅疾ならん因て食を
 求ると易く、飢れしうの釣竿を待て静止せ
 小魚その蠕々するを見く香餌たんと争ひ群
 集るときにはをらるとひま一吸ふ、その釣竿
 をもとの如く納緩々然るるとりの後、汲々、海自ふ
 して、鏡に、鏡を、凌、もの、似、ぞ、とい、り、お、この、振、舞、ふ、ハ

右の釣竿を必^く上^り客^に薦^する也^{あり}東^海多^しと
之^も銀^中相^豆常^則多^し皮^肉鬣^腮骨^腸膽^を食^ふべし
諸^病を害^すなり
氣味 甘平 毒^{あり}なり
主治 腎^を補^ひ胃^を益^す

あまたい 一名^ら伐^たな 駿^河よをきつだい雲^州よ小^びひ
と^の漢^名方^頭魚^固志^よ出^川頭^角扁^小りて嘴^尖り
鱗^鬣鮮^紅肉^白脆^大サ五六寸より尺余^に至^るその味^ひ
美^し 関^東ハ冬^月多^し 雲^州石^州ハ常^に大^きなるもの
あり又一種^いとよりだいと稱^するもの有り 状^全くあま
だいのと^く 背^に黄^條三^條ありて尾^の前^に一^條の

銀^糸を看^る 関^東多^しあり 西北^海尤^多し 味^ひ美^し
氣味 甘温 毒^{あり} 産^婦あ^り 久^病の人^にも害^{あり}し
あ^らを 即^ち赤^魚の義^{あり} 漢^名馬^乳状^もうと^いふ
一^頭眼^大く口^濶く鬼^面の^とし 一^身淡^赤く丹^色の
班^文あり肉^白脆^味ひ淡^美 **氣味** 甘平 毒^{あり} **主治**
脾胃^を調^へ氣^血を益^す 諸^病を害^すなり
あ^ら 状^たら^ふ似^て頭^長く鱗^細く灰^黒に赤^色を
帯^ぶ味^ひ淡^くよろ^ず **氣味** 微^甘冷 毒^{あり} **主治** 産^後
血^暈及^諸出^血を療^し或^ハ金^瘡破^傷凡^等を治^す
あ^らめ 俗^鮎の字^{を用}ゆ 漢^名志^れ縮^臥なり

細く赤褐色黒斑の点ありふあり二三寸大あり一尺余の
 至味ひ匪**氣味**甘平小毒あり俗に産婦食へ乳汁通せず
 あゆ日本紀にあり俗に鮎の字を用ゆ漢名香魚雁
 山志兩航雜録にも清俗溪鯪といふ細長く頭尖り
 嘴白く北月黄青く腹白く肉薄く潔白味ひ最甘美
 項背に凝脂あり亦美し諸品多くあり武州玉川を
 上とす延喜式に煮塩鮎塩漬鮎押鮎鮎鮎等諸國
 あり貢せて**氣味**甘温毒あり多く食へ火を動を
 主治五臓を補ふ妊婦に忌むうか俗に鮎の字を
 用也即腸醬あり肉鮎を雜造り沙石なきを上とす

藝列子出川鮎のこもて造るを子うるかといふあれは
 次く腸のこもて造るをあぶうるかぶうるかといふ
 酒徒その波を受む**氣味**甘澀毒あり**主治**湯利を
 止免患を殺し酒毒を解す
 あぢ 崔氏食経に鮎の字を訓し寧波府志に竹筴鮎
 とし鱗なく蒼黒色身中は一絲の逆鱗あり大サ一二寸より
 六七寸に至る大ありもの尺より尺半の春の末より秋の末まで
 大サ一二寸肥圓く腹中あり満川これをかりふらるといふ
 生熟皆香美あり上ととも賞美は冬ハ瘦て料理し

あくらび 只腊と云々。又丸石あり。相似く味ひ劣り小毒あり。一種ひらあぢ播戸室の海に多く。少くはあくらび状。圓く肉あつし。腊よつくろべし。房列布良よりその半乾のものを少く上と云。一種あまあぢ状あり。似て全身まぶかりをのどろい。小あくらを云のはと。小庵丁家亦重んじ。

氣味 甘温小毒あり。血を動う。熱を生ず。瘡毒忌む。

あぢご 鱧の字を用ゆ。海鱧鱧とい状くあぢご。似て黄赤色。淡黒を少く。脇は小白星一條あり。腹白く長六寸。より二尺許あり。桑食ふ時。うあぢご。伯仲也。一種大サ三四尺のものあり。だいあしとよぶ。希れ也。

あめのうを 延喜式は出川和名抄はあめと訓む。漢名鮓。個目小出川。状まき。さけは似たり。大ニ寸より二尺。肉赤く梅雨中多く。あつろをよと云。九月に至ると黒班を帯ひ。味ひ劣り。琵琶湖中多し。他掃子あり。生食し宜し。

あくらび 日本紀は出川。畿内は。延喜式は。一種小あくら。あくらめと云。本朝式文。鮓の字を用ゆ。漢名石决明。個目小出川。即双中の長より。古昔あり。賞美也。故に延喜内膳式。志摩の御厨の鮮鮓。味責。揚責。甘齋。鮓。蒸鮓。王貫。御取。其鮓。大膳式。鳴鮓。繩貫。鮓。佐渡鮓。阿波串貫。羽割鮓。筑紫鮓。将留鮓。神祇式。車鮓。葛鮓。

鮎 雙主計式は短雙鳥子雙横串雙甘鮎雙都都伎雙
 放耳雙著耳雙長雙丸雙高貫雙陰雙鞞雙腐耳雙
 火亮雙耽羅雙等の目あり皆諸國より貢せり
 あり今於諸國を出入せし中伊勢志摩安房上総
 より出るもの大あり四時ありて四五月を盛りとて肉色
 外面雄は青く雌は赭黄雌味は優れ生者共より
 軟らかし事を欲せし蕎麦粉と和すと一時より
 能あひ調理せしは好あり乾鮎即凡乾なるもの
 式は所謂神鮎の類あり今も於てひばひなる
 といへ隠岐佐渡等より出り薄鮎一名赤鮎今の厚斗

あり、ゆかや、或ハカダのーおどひて用中、諸國出り
 小かづびとくども、然中豊後の豊島志广の國寄
 例として毎年大神宮に奉る又東都にも上るとあり
 又とこぶーあり、鮎の子はあづが、別子一程小なるもの
 あり、味は淡し、**氣味**甘微鹹平毒なり、**主治**目を
 明く、肝の熱を清し、五淋を通、渴を止め、酒毒を解
 ぶくだと、即式は所謂腸積雙の類あり、奥州棚倉より
 出るもの雌双の肉を雄双の腸より漬り、尤佳美あり、
 薩戸より出るものハとこぶーあり、芳なり、
 真珠、赤へ白玉とよび、又所主より、雙玉とよび、今ハ

真珠シニジュ通稱あり。又人の玉ともいふ。腸中チウチュウあり。蛤カキ蚌ヘイの珠ジュは似にず色青白アヲシロくして明瑩メイエイあり。本朝明珠ホンテウメイジュの一イツりて薬ヤクに入イるもこの珠ジュを上品ジヤウピンとす。

あさり 清俗セイソク文蛤モンカク又蛤仔カキジといふ春ハルの味多アヂカし民間ミンカンの食シキあり。あしとも一品ヒツピンの下物ゲモノあり。氣味キミ甘寒カンカン毒あり。

あつじひ 和名抄ワナシラいづれも俗ソクに文理ヒトコトあるをさざらふ。古事記コトヰキに蛭貝ウシガイきざと訓クニむ西國サイクニにあり。ひ作渡ヒサツクあり。

瑠ル波ハといふ漢名カンナミ魁蛤ケイカク綱目コウモクに出イ川カハ四時シジキあり。生熟シヤクともおよ。泉播イハヒの海涯ウミキ浅アサき丸マをいづ。数ヒヤクマン百マン万マン群クンをなす。

これを赤貝山アカイヤマといひて漢人カンジンたましくいふ。あつじひ大利タリを得ユ。

一種イツシユ小コなるをさざらむといふ。その形味カタクミあつじひと同ドウく

あり。別種ベツシュあり。氣味キミ甘鹹カンケン平毒ヘイトクあり。主治シュジ血チを益マし。渴カク

を止トむ。俗ソクに此殼ココカラより鐵漿テツカサを温アヒめ。深シムれむ。齒イを固カタむ。

あこやぐひ 漢名カンナミ珠牡ジュウ又珠母ジュモ綱目コウモクに出イ。肥前ヘイゼンに真珠シンジュ

貝ガイといふ。即ソレ真珠シンジュを産ウめ。バあり。この貝ガイはあつじひをいふ。

の玉タマといふ。その肉柱ニクジュいたやぬのこ。食クハふべし。老オシたるとハ

殼カクの厚アツサ七シハ分ブン大オホサ七シハ寸スンに及およぶ。あしをあつじひより細コ工コウ

に用ヨウゆ。氣味キミ甘平カンヘイ毒あり。主治シュジあつじひをいふ。

あぶらあしき 本名ホンナミ祥シヤウなり。大船オホフネ洋中ヤウチュウにて。風雨フウウの

とき。あしき出値デヂとあり。其身ミタマを舶上フナウヂに打ウかけ。大綱オホツナ引ヒキ

あ

直せりていづく端もあれどぬるりくとおき直る。
いつたるまの老たるをんある人もあつた人を害
芝の心よもあつた巴ヶ身の油をとらためありその油
船中よ満れともくみ捨あつ海面も満川も満りたち
切とき油あつてあつ又あつてはうぢち故はあつ
とふ又ぬるくおき直るゆめるともいふ肥前の人
又徳州の漢夫のあつりしすをきすす。

あつめあつちぬ 共またい あつご あつご あんげんたん あつご
あつり あつり あま あま あめ あめ あま あま あま あま あま あま
あま あま あま あま あま あま あま あま あま あま あま あま

さこの部

さめ 新撰字鏡よ出川漢名鮫魚綱目よ出此魚他は異

みつて胎生ありその子母腹の腹中よ出まをのを圖書

よ出入魚といふ或は魚餅と或は煤き或は煮る共よすその

煤き軒とすを七品げりりてて庵人あれを秘す魚餅香

魚ありゆは魚餅家一日も缺べり酒肆もまら必備ふその

種類多きゆは盡し難しといふその食べきよのハ漏

さめ耳目小觸るあど此に記す **氣味** 甘温小毒あり

主治 氣を益し力を壯す輕病の人食て害あし肉韌

きや脾胃弱き人の脾へべし魚餅とかりあつる製法をす

ゆく思となり。○ほりさめ皮上白魚あり故ふつふあつは九寸
大あつは三尺許、それを魚餅の最上と云、赤ぼりハ色赤くわ
あし、加さめ三四寸あり、六尺余をいふ日光街路あり、あつを
とふ、ころさめ大サ、五六尺余あり、めづがさめあつ洋中の
大魚ろして、昇り上るもの小瓶とつとも、其穢きものを
魚餅の品ゆへに、あつを出すころか、その老たるものを、その
穢き程を、北月の沙の大サ、粟粒の如く、老る小皮を、
経り六七寸の珠もあり、銀の腕を、千萬覆がし、その老
且大なるともあつべし、洋中を夜過る小、明鏡を、連続が
如く谷々光輝を、放ち浪を、鼓く餘光、數尋小、あつひ

數十町の遠きも、咫尺、接すが如きを見る、あつの背、上
の珠あり、人色を、聞とき、必未、船を覆せ、上声を、吞
てひを、まき居る、若船、小網を、む、底板、忽微塵、小碎となり、
又漁夫、鰹を、釣る時、その得ると、竿を、上げ餌を、投し、
ひまなきともあり、この時、鰹を、四五本、宛い、束
となり、束おきて、不虞、小倫とあり、かく得ると、あつの魚の、仕業
あつ、舟を、已る背、よむさ、十分、渾て、帰人、あつ、舟を、沈み、
人魚とも、小食、えんと、まき、となり、老魚の、智巧、なるも、
豈人の、靈をも、小あつ、や、漁夫、まき、知り、て七、八、小至る
あつ、鰹の、口を、追は、せ、あつ、ら、い、乃、声、高く、繩、とり、の、べ

カのカギツリ、舟をちどり、おまの用素の魚東投げ捨しく
走り去る魚の追とも疾とつと、右ふまとへむたふゆきたると
まのしど、右よまるとゆへ追たやみ空く投るを食ふのと
ふてやむとあん束まで捨も少く、ゆとつとも漁て帰ると
常小敷倍ちゆへかきまめりて、幸を得るを、漁夫の誘
ふ値もめり、逢ぬもめり、つとけは、ふれふ諭て、いふとなす
ゆへ、あ大サ、八九尺許、よまらず、寧波府志ふ、泊眼藻といふ
はまりとわり、ひらかし、ら、あど、祿あるもの、ゆへ、この一粒
なりを、あづ、尾全身よりあがし、わに背、黒点あり、わに
まう、ぎんの轉畧うして、黄鱔、是なり、さめ、ハ、總稱、又わに

又ぬると、ふ、あ、あ、さ、め、俗、よ、あ、を、と、ふ、その身あをし、福志、
ふ、胡、鯊、一名、青、鯊、か、あ、は、か、ハ、め、ら、よ、似、て、皮、沙、あ、る、さ、め
の、ぬ、り、う、り、て、色、黒、し、こ、ろ、か、す、あ、る、さ、め、か、あ、つ、何、の、四、柱、ハ、
肉、の、く、な、ま、じ、皮、も、亦、用、を、存、す、こ、れ、ま、で、の、肉、も、作、る、魚、餅
を、上、品、と、す、つ、の、ぜ、北、背、小、角、の、ぬ、り、鱗、あり、ぎ、ん、さ、め、その
皮、沙、あ、く、白、色、光、滑、く、銀、の、ぬ、り、骨、柔、く、肉、甚、美、し、
あ、ち、も、く、状、撞、木、の、ぬ、り、眼、兩、端、に、あり、圖、書、小、雙、髻、魚、と、ふ
是、サ、ヤ、を、中、品、と、す、ぬ、つ、と、さ、め、其、既、ぬ、つ、い、小、似、あり、う、ち、と
状、圓、く、團、の、小、似、あり、さ、く、た、い、う、ち、の、類、あり、そ、と、は
又、ち、う、げ、と、も、い、ふ、状、卒、亮、婆、小、似、あり、わ、ら、ず、黒、く、肉、白、し、

一肉さめよく似たりも別なり。鱈らその皮剥きよくべりく
まらなる。かくべい又かかむらふ。状神楽の獅子頭のみし
よきり背青く腹白し。その肉やうなる。えんぐ天狗
小似たり。あぶら脂多し。ぬこ又さざえ割ともふ其頭描小
似たり。塩縣圖經小虎頭鯊とふ。あせいぬこさめり
少ら。陶書小虎鮫とふ。のまきりさめ上嘴長サ二三尺。
両旁に齒あると。鋸の如し。陶書小鋸鯊山堂肆考小鯊魚
とふ。とげんさめ又ふ。しときとふ。状牛尾魚に似て。沈
細。色黄赤。淡黒を帯。胸上小判金の形ある。ゆふ
あふ。異物志小印魚。或書小咽機多魚とあり。或いふ魚

の大なる。この船底ふつ。時ハ大船七行とある。とて、
あやう。ともよべり。五六種あり。鬻ぐもの鏡。尺にすぎず。
えんぐ以下。魚鮫の用。入れず。或は煮食。小品もあり。又いふ。
さめ。頭鴨脚乗。小似たり。うばさめ。その皮。縞紋ありて。
剛齒あり。これを老婆子。たふ。かつたい。さめ。色。灰黒。背ふ
蛙丸。のとき。斑あり。口吻。小瘤あり。さめ。さめ。一名。えん
が。い。状。林。幡。の。似。あり。味。ひ。美。く。更。は。腐。臭。か。臺灣
府志。旗魚。と。い。ふ。か。い。め。ぶ。う。陶書。小。犂。頭。鯊。其。か。ら
犂。耳。の。ぬ。し。又。の。く。そ。う。ぶ。う。綱。目。小。鮫。魚。ざ。う。ぶ。う。鱈。魚
綱。目。小。出。川。九。方。引。風。乾。の。肉。あり。延。喜。式。小。鮫。の。楚。割。

和名抄は須波夜刺は作る。たり塩し乾たる肉あり。江家
 次弟子黄鱈とつて是あり。今伊勢及肥後よりある味ひ
 ひだらは似てより。きんひれ。ぎんひれ。翅の筋未あり。色
 晶莹金銀の如し。鱈の伴ふより。清倍金絲菜。銀絲菜
 といふ。日本の産を別々賞美す。よる年々翅を交易す
 るといふ。眼糸未ゆもく。さめの目よ白き糸の如きものあり。
 それを味噌汁も煮て。食へ。雀目を以て。さめのまも
 お同せいもあり。他のさめより。形掛守袋も似て。緒の
 形もあり。色ハ琥珀のごとし。下総銚子浦にて。さめのこら
 ぶらるといふ。産の催生よ。それを襟かけ。或はよもて。ハ

産からしこれ。熊の腹帯の類なり。

さい 倍よにこひ。鯉も似るといふ。義なり。薩戸よいだとも。
 漢名白魚。綱目よ出川。状こひよ似て。白色鱗細く肉軟く
 岐刺多し。淡水よ生す。主治 胃を開き。氣を下し。水氣を
 去る。人を肥健あるにむ。
 さんま 漢名まれば。秋冬の交。房総海多し。塩し。高
 く。又鮮なるもの。食す。よ。上饌よ充らず。病者よ
 よろす。京都よ。さより。と稱ふ。
 さび 和名抄は。鱈の字をあをさむと訓ふ。漢名まれば。す。
 清倍は。青花魚といふ。四時常よあり。春より。秋のすく

まて盛なり。ふけ細く青色背は蒼黒の虎斑あり能登
 周防讚岐伊豫等の國貢する。延喜式にも。能登周防
 を名産と云彼國佐婆郡あり。其地を好す。ゆへ
 各々今ニ頭刺合して。鮓はるをさ。さばと云。今中元
 の節物。上下とも用也。又延喜主計式。鯖醬あり。い
 長門周防あり。出づ。背腸醃と稱ふもの。此車あり。氣味
 甘酸温小毒あり。主治。虚泄を止め。冷痢を調ふ。
 さころ。小あをさご。い。信。の字を用也。漢名
 馬鮫。魚。閩書。ふ。い。處。ふ。れ。を。出。す。鱗。ふ。く。深。青。
 背。青。班。圓。文。け。り。肚。白。し。尾。岐。り。て。尾。の。前。西。片。子

三角。鬚。あり。て。鋸。齒。の。と。し。肉。白。く。脂。多。く。味。ひ。美。し。
 大。か。つ。も。の。三。尺。よ。あ。る。六。月。あり。十。月。以。ま。て。盛。り。と。す。
 又。北。海。文。を。き。い。の。あり。氣。味。甘。温。小。毒。あり。濕。熱。を。動。
 かし。眼。病。瘡。毒。の。人。食。ふ。べ。う。ず。
 さけ。和。名。抄。よ。出。川。雀。氏。食。經。よ。鮓。そ。の。子。甚。よ。似。て。赤。光
 あり。一。名。洋。魚。春。生。て。そ。の。年。小。死。ゆ。へ。名。ば。く。倍。は。鮓
 の。字。を。用。ゆ。鮓。の。一。名。あり。て。さ。け。よ。う。ず。按。す。小
 生。圭。似。て。誤。る。あ。る。べ。し。真。羽。多。く。産。す。松。前。蝦。夷。尤。多。し
 東。都。の。鮮。鮓。利。根。川。を。よ。と。す。能。中。布。川。村。尤。美。し。今
 東。奥。あ。る。も。の。四。方。は。通。商。し。て。到。ら。ず。と。さ。ら。あ。し。

神祇式イソイカノ所謂イソイカ内子甦イソイカハ今イソイカ仙臺イソイカよりある所イソイカの子孫イソイカの塩イソイカ引イソイカあり。その頭イソイカ骨イソイカをイソイカひづイソイカとイソイカ即イソイカ胸イソイカ骨イソイカよりイソイカて氷イソイカの澄イソイカ徹イソイカるイソイカ如イソイカきイソイカものイソイカなりイソイカ。又イソイカ甦イソイカ北イソイカ月イソイカ腸イソイカありイソイカ。和イソイカ名イソイカ抄イソイカにイソイカいイソイカちイソイカるイソイカとイソイカ訓イソイカ也イソイカ。共イソイカにイソイカ丹イソイカ後イソイカ信イソイカ濃イソイカ越イソイカ中イソイカ越イソイカ後イソイカこれイソイカをイソイカ貢イソイカとイソイカ其イソイカのイソイカ蘇イソイカをイソイカはイソイカらイソイカごイソイカとイソイカひイソイカ胞イソイカをイソイカ連イソイカてイソイカ醃イソイカはイソイカらイソイカすイソイカ。筋イソイカ子イソイカ或イソイカはイソイカ甘イソイカ子イソイカとイソイカふイソイカ。氣イソイカ味イソイカ甘イソイカ微イソイカ温イソイカ毒イソイカなりイソイカ。主治イソイカ中イソイカをイソイカ温イソイカめイソイカ氣イソイカをイソイカ吐イソイカすイソイカ。多イソイカ食イソイカへイソイカ痰イソイカをイソイカ癸イソイカとイソイカふイソイカ。萬イソイカ葉イソイカ集イソイカよイソイカりイソイカづイソイカ俗イソイカにイソイカさイソイカざイソイカいイソイカ。榮イソイカ螺イソイカのイソイカ字イソイカをイソイカ用イソイカゆイソイカ。漢イソイカ名イソイカ拳イソイカ螺イソイカ寧イソイカ波イソイカ府イソイカ志イソイカにイソイカ出イソイカ河イソイカ清イソイカ商イソイカのイソイカれイソイカをイソイカ草イソイカ螺イソイカとイソイカ名イソイカづくイソイカ。一イソイカ種イソイカ。魂イソイカさイソイカざイソイカいイソイカありイソイカ。其イソイカのイソイカ稜イソイカ險イソイカくイソイカ稍イソイカ扁イソイカなりイソイカ。いイソイカちイソイカるイソイカよイソイカのイソイカ別イソイカ種イソイカありイソイカ。又イソイカ殼イソイカのイソイカ背イソイカ尖イソイカ角イソイカなりイソイカ。圓イソイカきイソイカものイソイカありイソイカ。撰イソイカ泉イソイカ

海中イソイカにイソイカ産イソイカすイソイカ肉イソイカ味イソイカ最イソイカ美イソイカ東イソイカ都イソイカのイソイカ産イソイカにイソイカ勝イソイカれイソイカりイソイカ。氣イソイカ味イソイカ甘イソイカ平イソイカ毒イソイカなりイソイカ。主治イソイカ目イソイカをイソイカ明イソイカりイソイカ。渴イソイカをイソイカ止イソイカえイソイカ水イソイカをイソイカ利イソイカしイソイカ。酒イソイカ毒イソイカをイソイカ解イソイカすイソイカ。脾イソイカ胃イソイカ虚イソイカ弱イソイカなりイソイカ。消イソイカ化イソイカにイソイカかイソイカたイソイカりイソイカ。食イソイカふイソイカべイソイカくイソイカすイソイカ。さイソイカりイソイカかイソイカみイソイカとイソイカふイソイカ。北イソイカ地イソイカのイソイカ溪イソイカ間イソイカ河イソイカ流イソイカのイソイカ中イソイカにイソイカ生イソイカずイソイカ。蝦イソイカ夷イソイカ松イソイカ前イソイカよりイソイカ志イソイカまイソイカりイソイカがイソイカよイソイカとイソイカふイソイカ。捕イソイカんイソイカとイソイカすイソイカ。味イソイカ香イソイカ汁イソイカをイソイカそイソイカくイソイカけイソイカハイソイカ聚イソイカりイソイカ香イソイカとイソイカありイソイカ。味イソイカもイソイカ香イソイカびイソイカみイソイカ似イソイカたりイソイカ。さイソイカりイソイカかイソイカみイソイカとイソイカふイソイカ。頭イソイカ中イソイカ一イソイカ石イソイカをイソイカ生イソイカずイソイカ。漢イソイカ名イソイカ刺イソイカ蝸イソイカ石イソイカといイソイカひイソイカ。蘭イソイカ名イソイカおイソイカろイソイカかイソイカんイソイカまイソイカりイソイカとイソイカふイソイカ。主治イソイカ水イソイカ腫イソイカをイソイカ利イソイカしイソイカ。小イソイカ便イソイカ閉イソイカをイソイカ通イソイカすイソイカ。金イソイカ瘡イソイカ破イソイカ傷イソイカ凡イソイカにイソイカかイソイカりイソイカ。さイソイカうイソイカまイソイカりイソイカとイソイカふイソイカ。さイソイカざイソイカらイソイカりイソイカをイソイカけイソイカらイソイカすイソイカ。

さびし さびし このげり いざよひ さままき いざよひ さるがう いざよひ

きの部

きす

俗に鱧の字を用ゆ。漢名雞魚。時珍食物本草

出川河海の二種あり海産のもの。状少く圓く肥へ色

白く大サ四五寸よす。四時共あり即まがすといひ

一よありきす。又海がすといふ。その肉潔白なり味

甘美し最上とす。氣味甘平毒あり。主治胃を開き

食を進む。病者宜食ふべし。又川がす。蜻がすは

同種あり。形ち圓くふとりて吻尖り尾よこなり

けをれり。或は碧色を帯よあり。味ひ佳しといへも

小毒あり病者忌べし。又黑白の虎斑ありて頭丸く

状けせし似たるを。虎がすと云。肉白く味ひ淡し

生飴とも佳し。又沖がすあり。状きすし似て目丸く

こけ餘く大サ尺余よ及ぶ。味しよこへ。腥氣あり。食

料となす。只魚饒の上覆に用ゆ。あれ一類別種あり

ぎんざりを。一名かひわり。状まなうつを。似てあけ

か。目大よ口小く身圓扁あり。味ひまま。あのごじ

ぎん。同。一名海がせ。状とせう。似て扁く全身黄

色背よ黒斑あり。粘滑もとせう。同。しま。食ぶ

人あり。近來民間の食となり。味ひよけれと下品あり

ぎんう 一名ぎんう 丹波よりうらがき越前におどりこつふ漢名

黄頰魚 綱目より出川黄褐色背より黒斑及び瘡痕あり

其鱗皆銳利ありこれ觸ると痛燎が如し大なるハ

尺余江湖より産す一種小なるものあり俗より蜂ふぐ

とよその色黄赤或は白線紋あり鱗となりて食べし又味

おまぐらに似て大サ一寸より三寸に班あるものをぎんうと

といふ髪春より毒刺ありおれふるれむ忽毒痛を發す

氣味 甘温毒あり **主治** 瘀血を破り瘡を消す

きんう 一名きんうをいふ ぎんう 一名ぎんうをいふ

ゆの部 ゆるがいろかこしや

めの部

めけろ 状ありをふ似て眼大に腫張し溜口ありん

味ひりく 同し赤黒の二種あり諸州より多し甘平毒あり

めたご いろいせこい めりざち めじ めごち 共いまごら

みの部

みるらひ 俗より水松貝を用ゆ水松好むこれ貝より生ず状

食より似たりゆふみらひとらふみるのものと藻鑑よりおへし

漢名西施蛤 王立懋の岡部疏より出川蛤に似て長く殼の

裡色蚌の如し肉味淡脆美し **氣味** 甘温毒あり 燥す

鮎より **主治** 吐血下血を止め陽を吐き氣血を補ふ

めすし

みぎき... みち... みな...
し

しの部

あらうを 文字集畧に鮎魚ワケ和名あると云ふ漢名鱧

残魚カマモリ綱目小出川備前平江伊勢イセ衆名イセ多し武蔵角

田川及び中川のまのも衆名の種タと云ふも水美ふれい魚

も亦美なり誘ユウよウチ氏ウチとをそむちあふべし麩條魚テウジョウイシあり

河間府志カマノフシに俗ソクに考らるると云ふ近江チカにひを西國サイコクに

考らるる撰津センツよとあゆ又とろめ加賀カガよそとめと云ふ

冬月淡水フユキニシに生る近江チカ堅田浦田上山城宇治川撰津の

川口最多しカハ春隻ハルツキの交マこれを取トルるこれ鱧残魚カマモリの三春ハルツキを

限カる子異コあり狀鱧カマモリ残ノ似ニて黒点クシツあり腥氣ニホクありて味アジひ

劣セる只タ養魚ヤウイシとして遠トウに致チす氣味キミ甘温カンオン小毒コドクあり主治シュジ

胃イを開ヒラき食クを進シむ多く食クせれも熱動ネツドウし血チを

中ナカあふゆユ小姓婦コシヤウメ金瘡カネサウ等トいひべし

志シいら倍ダイよとふやヤく又マくまびきと云ふこれ九万疋クウマンヒキの義カミあり

一名ナヒトひらヒラ鱧カマモリの字ナリを用ヨウゆ漢名カンナ勒カク魚イシ綱目カウモリ小出川コデガハ此魚コノイシ紀伊キイ土佐ツサ

二肥ニヒ薩サツ大ダイ産サン大ダイ三尺サンシク小過コカ頭角カウカクく身扁ミヘンく音黒色オンクシキ

鱧カマモリ細ホソく皮厚クキコウく肉白ニクシロく腰下ウサ硬刺コウシあり教キョウ万マン群游クンユウ也

あつて九万疋クウマンヒキと名ナはく又マ房相海中フウサウカウにもあり味アジひ佳カ

加カらず氣味キミ小毒コドクあり主治シュジ未ミ考カウれず

ちぢみ 萬葉集子出川 四時美の字を用ゆ 和名抄にちぢみ
 びか賀よりちぢみ 漢名 蜆綱目子出川 淡鹹 交會子生
 ちぢみ 殼泥中のもの黒く 沙磧中のもの黄を帯ぶ 東都
 南河川のちぢみを 業平ちぢみとよぶ 其の肉殼裡に満り
 甘美し され 穀液系汁の化し長ずるやあり 江都等一
 多産す 白縷文あるものあり 河間府志の白蜆あり
 近江は黄色のもの多し 何うもぐると呼ぶ **氣味** 甘鹹
 冷毒あり **主治** 濕熱を去り 小水を利し 盜汗を止む
 黄痘は 味噌汁に煮て食ふ 又煮汁を身を洗てよく
 ちぢみふさ 状 文蛤に似て 殼厚く 飯の味ひ劣れり 酒毒を解す

ちぢみ かく同 一名大がめ 又海がめともいふ 漢名 蠶龜
 綱目子出川 海中子産す 状 水龜と一般あり 其の板甲は
 玳瑁に代りし 其の卵の大 雞卵のごとく 海濱破石の中
 子産す 煮食ふと 臭し 臭気あり 二肥薩す 梅雨
 の後これを取ふ 八丈三宅の土民も 漢具ありて 常に捕へ
 食ふ 近來東武の漢夫も亦食ふを知る **氣味** 甘温 毒
 あり **主治** 風熱を去り 腸胃を利す
 ちぢみやちぢみ 又ちぢみとよぶ 縣名あり 鯨圖をいふ
 ちぢみ 鯨の状に似て 大サ 四尋許 味下品 油十五樽を得べし
 又同醜を食ふと 又北海にちぢみとよぶ 海豚に似く

背セ小こすすどどきき鬚ひげありてよくく鯨くじらを死すとよよの類ありとし
又また海うみ獣けもの子こはかままへへありとよよの類ありとし
よよの類の類又また別べつ種しゆありて海うみ族しゆ中ちゆうの類猛まう悍げんありとよよの類ありとし
浪なみを起し雨を呼び好下こ鯨くじら魚いしを食ふ其状しやう小こなれども
鯨くじらは値ふとき辟易ひきし逃竄にくとなれども追お追お勢せ
電でん光くわうの雲を過ると疾はやし終ると腹はらを穿たれども
餌えとあると所ところ謂い鯨くじらはあるとはあれを食くふ
吞の舟ふねの名を蒙る大魚いしは如此ごとく漁人いしの個也ごとく
死しぬべきまの子非なず偶自ごう死ごうの漂ひ来るとあり
或あるはれを鯨とひ又また蟹かに吻くち鵝が尾びといふ火災さいをよける也

和わ漢かんともも宮みや殿てん城じやう樓ろう不ふ設せつく又黄わう金こんを以て造る金生せい水すい
の縁ありべしさあれども銅どうは容易ようあらねばもて
造つくれるものありと漢かんは啗の獸也と又また水すい精せい也と鯨くじらは
魚いし虎こ會かい意いの字なり本草ほん小こ魚いし虎こ頭とう魚いし身しん背せい不ふ刺せき
ありと見みゆ先車せん志しやあらひありといふあるを虎改かい
魚いし身しん今いま設せつくもの小近ちゆうしやあれわくあまの魚
猛まう悍げんありと浪なみを起し雨をよぶあらねども何なんを祝融じゆうの
災さいを禦さ護らざんやあらのとあらず又人ひとあらも益有あり
漁いし人いし偶ぐは牙齒さを得るとあり三四し寸すん或ある六ろく七しち寸すん許こす
銳えい利りありその功こう能のうハ一角かく小こ同どうし又注ちゆう車しや艇てい罩さう不ふ妙めう

ちりのふ。又凡のまの火傷ふ塗るよしと。医書子見きたて。
一ゆらち。一々ち。一びらす。一らす。一をひき。一んぢゆ。
一かさい。一ます。一らさき。一をひき。一んぢゆ。
一ぶう。一かちゆ。一んぢゆ。一やくし。一ひ。一んぢゆ。

えの部

えい 和名抄よえひ。文字集畧よ鱧魚の訓とす。紀伊ふえふ。
江家の義なり。伊豫よあぶらうを。福建通志よ鍋蓋魚
とふ。和漢志を因ふ。漢名海鵝魚。綱目よ出川。五色有
赤えひ。又ふたり。赤きを。鰾魚。泉州府志よ。中。黄を
黄鰾魚。煙薰のもの。黒鰾あり。鳥喙のもの。俗よとび

とふ。共よ。閩志よ。とせよ。人魚骨ハ。即此骨あり。又
よふ。あらふ。どうらん。等あり。その尾端よ毒刺あり。
よ。蝨を漁人これを。氣味甘平毒なし。主治。肝
虚雀目。疔瀉よ。又雀目よ。血きもを味噌汁よ。
考食ふよ。俗よ。人魚骨。痛疾を治すよ。
え。筑前筑後よ多し。土佐紀伊伊勢。東都近海よも
あり。漢名鱧魚。綱目よ出川。状かますよ。似て身扁
く頭尖り。上吻嘴の長サ一寸許り。鍼の如し。其眼と
口吻と相逼り。腮下よ長鱗あり。腹下よ三尖鱗あり。尾
狭く。一々岐なり。長サ二三寸より一尺よ至る。味ひ佳

かゝらずといふともあつひ魚餅とありてあり。

えび 和名抄にえび本朝式文海老の字を用ゆ神祇式に

釣の字を用ゆ漢名蝦細目に出川蝦和漢ともふ

えびの惣称なり諸別有といふとも伊勢及び相州鎌倉

名産ともゆへ伊勢かえび鎌倉えびといふ函書に龍蝦と

ふ是なりその大サ二尺殻紅なり鬚身あり長し久

殻を更しものをやうらとよふ南海に最大なるものあり

延喜主計式に伊勢加摺津知泉等貢す古あり賀寿

又蓬萊盤中門松の飾に用ゆふ壽を祝し老を慕の

類あり又江海湖池に産するものその種少からず東都

芝浦に産するを志はえびといふ清蝦あり志らざる白蝦

なり梅雨の中多をつゆえびといふ梅蝦あり池沼に

生るをのらまえびといふ泥蝦なり共は細目は出川車

えび又らまえびあり共は色蝦なり車えびの小あ

るものをさやまきといふ班節蝦あり共は函書に出川

は長えび草蝦あり函通志に出づ背三稜なり剣背

の如きをけんえびといふ江蝦の類ありるあゝえび

却武通志の大脚蝦なりあゝえびぬうえびともいふ

深蝦糠蝦なりたれその大サをまつて名く細目に出づ

醬蝦ともいふ塩辛に作すゆあり函志に出づ又志やい

状蜈蚣のしりく背三稜ありその色青く尾僧帽の如し
蝦蛄一名青龍あり函書其の氣味甘温小毒あり或ハ
尾屈まぬもの毒あり又柗の實と同く食ふべからず
主治 氣を益し腎精を盛ます又あく婦人産門破れ
腫るよやく研りて傳れど瘡也

ひの部

ひらめ 漢名板魚南越志よ出川大ある者ハ二三尺状如い
子似くあり東海多くし西北海稀あり冬春の際を時
と生煮ともふ美し一程ふもひらめ一名らつ扱こ又

ろしのあつともふ状牛舌及び鞋底子似たり味ひよし
とくとも下品ありて類せり 氣味甘平毒なし 主治 脾
胃を補ひ氣力を益し諸病忌むとあし

ひいと 倍一鯉の字を用ゆ鯉一似たれども別種あり所
海中多し賤民の常食なりその鮮ありハ味ひよし風乾
するをぶまめとりふ稻稗を培養し用ゆる也 田作
と稱して上下ともふ歳首の節物也

もの部

ひらまき びらをたひびらなびらひはらひら
もの部 ちろこげくちろこげくちろこげくちろこげく
西國よいそめばると鱗細く鱭長く頭面ありを
ひかせす

ふ似て尾は白黒の斑点あり、その魚胎生なり、味は極上品なり、別て冬月美し、**氣味**甘平毒なし、**主治**ほろろ、**同**

せの部 せいごすの部

すゞき 和名抄は出川漢名鱸魚、綱目は出川、小あるをせいご
よふ倍は鮓の字を用ゆ、少しく大あるをふつこ、や別て
ちうばんとらふ下総鮓子の産をよとす、然れも角田川の
下は養ふときハ水の清きと、脾潮の鹹うさるふ化して終
は善美兼盡す、その肉ハ即玉贈りて、夏月の珍、これ過
るよふし、唐も呉の淞江の産を天下の珍とす、あるはハ
四腮魚とよふ、淞江のよの其腮四枚ありとす、此方ハ雲州

松江の産是あり、又関西の第一とす、只雲州の東都は殊
あるハ冬月を珍とす、又志ます一子もふつことふ状
せうきふ似て、頭少く、角ハ海錯疏の鱉魚是なり、
氣味甘微温、小毒あり、**主治**肌肉を潤し、筋骨を強し、
水氣を治す、多く食ハ瘡癬瘡腫を瘳す、
すなめや、状はかのどく、くららの粒柔まりて、横尾
なり、色淡黒鱗なく、大サニ三尺より、五六尺に到る、秋より
冬ふつ多りて、渾身を食ふも、冬よかざる、味はひつるより、
下品なりて、少く毒あり、虚弱の人食ふべからず、
まらげん 和名抄はかどがめ、俗はどろがめ、又どち、又

どのうめし漢名鼈綱目に出川この所生及び味
 人みな知所あり故小省く即薬に用ふる鼈甲あり玳瑁の
 倍稱同一きをまらして鼈甲を玳瑁の櫛笄の工に求るハ
 大なるあやまりなりバヤ氣味甘平毒なし主治中を
 温め氣を益し不足を補ひ陰莖を強くし常小食へハ
 瘡を病む又終身白髪を生ぜぬ皺よるを滋潤少年の
 ぬし一物百歳を経ても御る實小不老の丹薬なり
 十はちりいさすめりをすめりたいすめりたいすめりたいすめりたい

本文 檉涯拙筆
 彫刊 彌曾守

魚が更巻之下大尾

追刻書目

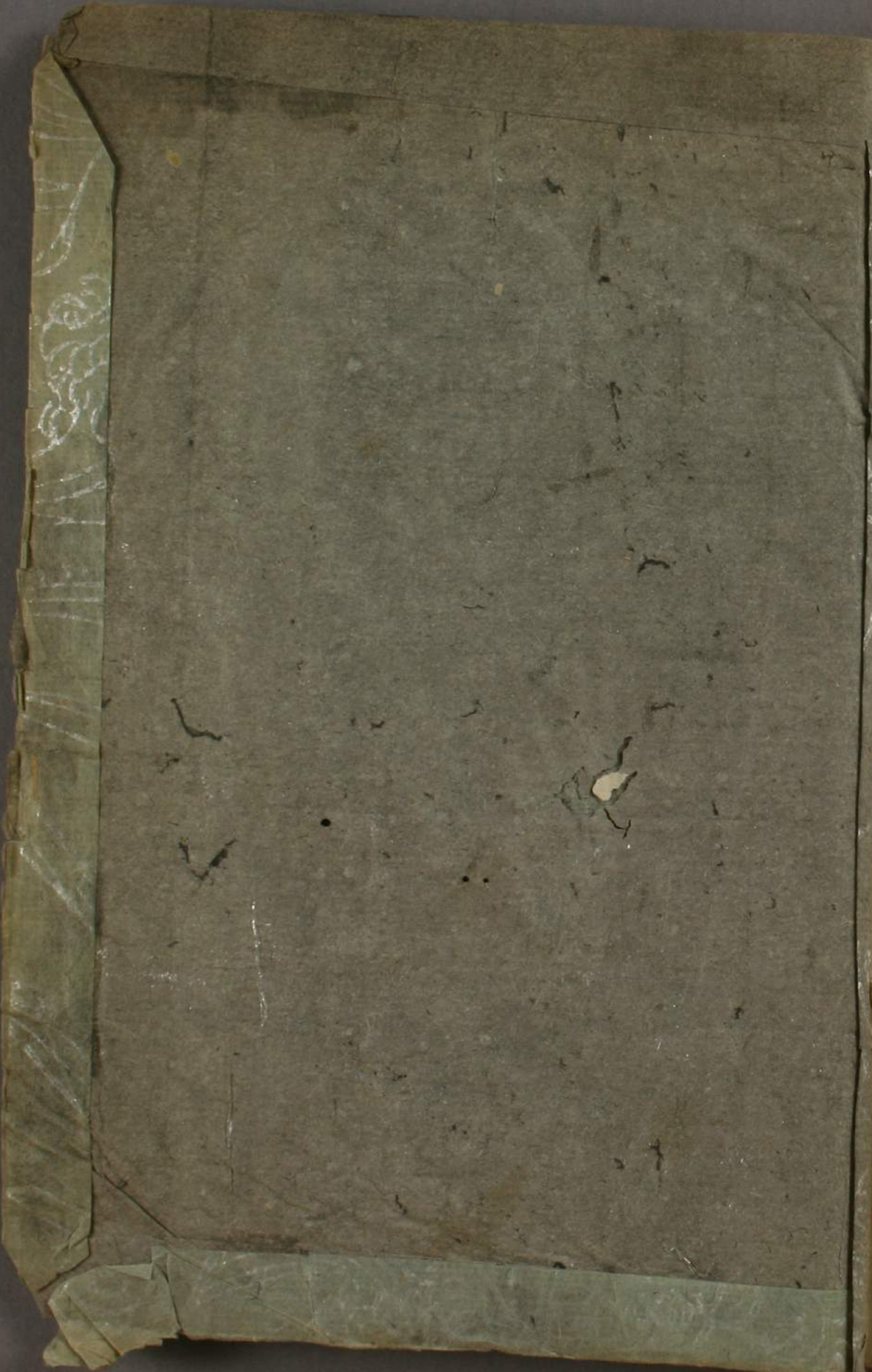
菜さい　　み
 菓くわ　　み
 藻も　　み
 蕈しん　　み
 鳥とり　　み
 獸けつ　　み



製本 金花堂

吞海樓藏板





武陟書目

海
類
彙
藻
藻
藻

武陟書目

武陟縣志



